

ふくしまブルーリスト(侵略的外来種リスト)

(1) 哺乳類

No.	目	科名	和名	学名	特定外来生物	生態系被害防止外来種リスト区分	国内外外来種	県内分布	県内の被害状況	福島県対策優先カテゴリー	被害の深刻度に関する基準	対策事例	備考
1	食肉目	イタチ科	アメリカミンク	<i>Neovison vison</i> (Schreber)	○	重点対策外来種		中通りの阿武隈川流域全域にほぼ生息していると考えられる。この他、2008年のアンケート調査では、西会津町、浪江町に、会津地方、浜通り地方にも目撃記録があるが、未確認。現認(西郷村堀川ダム、福島市湯川流域)。確実性のある記録(岩崎2007、大槻他2008、伊原他2013、福島県野生動物研究会員私信)福島市、二本松市、本宮市、飯野町、郡山市、須賀川市、田村市、三春町、鏡石町、浅川町、この他にもセンサーカメラによる撮影記録などがあるが未調査。	県内で具体的な被害は確認されていないが、在来生物の捕食、漁業被害等が懸念される。	緊急対策外来種	②④		堀川ダムではウチダザリガニ駆除用のカニカゴに入った。
2	食肉目	アライグマ科	アライグマ	<i>Procyon lotor</i> (Linnaeus)	○	緊急対策外来種		文献による記録にはなっていないが、聞き取りや各種センサーカメラのデータから、ほぼ県内全域に生息していると考えられる。確実性のある記録(大槻他2008、福島県野生動物研究会員私信)只見町、福島市、川俣町、郡山市、田村市、三春町、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、葛尾村、いわき市)。この他にも県などのセンサーカメラによる撮影記録などがあるが未調査。	在来生物の捕食、農作物被害、家屋への侵入・糞尿被害がある他、人獣共通感染症による人への感染危険性がある。特に絶滅危惧種である両生類等への影響が危惧される。	緊急対策外来種	②③④	有害捕獲。	日本の侵略的外来種ワースト100
3	食肉目	ジャコウネコ科	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i> (C. E. H. Smith)		重点対策外来種		ほぼ県内全域に生息。狩猟統計、福島県野生動物研究会員私信などにより、ほぼ県内全域で確認。	在来生物の捕食、農作物被害、家屋への侵入・糞尿被害。	重点対策外来種	②④	有害捕獲、電気柵等による被害対策。	

(2) 鳥類

No.	目	科名	和名	学名	特定外来生物	生態系被害防止外来種リスト区分	国内外外来種	県内分布	県内の被害状況	福島県対策優先カテゴリー	被害の深刻度に関する基準	対策事例	備考
1	カモ目	カモ科	カナダガン	<i>Branta canadensis</i> (Linnaeus)	○	緊急対策外来種		1999年にいわき市から1例のみ。	近縁種で絶滅危惧種に指定されているシジュウカラガンとの交雑による遺伝的かく乱が懸念される。	その他の総合対策外来種	③		
2	カモ目	カモ科	コブハクチョウ	<i>Cygnus olor</i> Gmelin		その他の総合対策外来種		いわき市、相馬市の2箇所繁殖を確認。	国内では水田の稲が食べられるなど農業被害が出ている。	その他の総合対策外来種			
3	スズメ目	チメドリ科	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i> (Linnaeus)	○	重点対策外来種		中通りで29市町村中25市町村、浜通りで13市町村中8市町村から記録があり、両地域では広く分布していると思われる。会津地域では17市町村中5町村から記録されているが、北塩原村では越冬個体と思われる個体が確認されており、今後調査を進めれば会津地方でも広く分布している可能性がある。	国内での詳細な被害状況の報告はないが、海外では生息場所やエサの競合によってウグイスなど外来種の減少の一因となり得ることが報告されている。	重点対策外来種	②		
4	スズメ目	ソウシチョウ科	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i> (Scopoli)	○	重点対策外来種		桑折町(西山城址、半田山)、いわき市(石森山)から記録、いわき市(乾鬼屋山、鶴岡井岳)、郡山市(大島自然ふれあい広場)、須賀川市(翠ヶ丘公園)、二本松市、飯沼村から情報がある。	ソウシチョウの果を目当てに捕食者であるカケスなどが誘引され、ウグイスなど外来種の繁殖に影響を与える。	重点対策外来種	②		

(3) 爬虫類

No.	目	科名	和名	学名	特定外来生物	生態系被害防止外来種リスト区分	国内外外来種	県内分布	県内の被害状況	福島県対策優先カテゴリー	被害の深刻度に関する基準	対策事例	備考
1	カメ目	ヌマガメ科	ミシシippアカミミガメ	<i>Trachemys scripta elegans</i> (Wied, 1839)	○	緊急対策外来種(アカミミガメとして)		浜通り、中通り、会津(会津盆地)	生態系、生物多様性	緊急対策外来種	①②③		日本の侵略的外来種ワースト100、各地で繁殖可能性あり。

(4) 両生類

No.	目	科名	和名	学名	特定外来生物	生態系被害防止外来種リスト区分	国内外外来種	県内分布	県内の被害状況	福島県対策優先カテゴリー	被害の深刻度に関する基準	対策事例	備考
1	無尾目	アカガエル科	ウシガエル	<i>Lithobates catesbeianus</i> (Shaw, 1802)	○	重点対策外来種		浜通り、中通り、会津(会津盆地中心)	生態系、生物多様性	緊急対策外来種	①②③	松川浦・はげっこ倶楽部(駆除活動)、福島市小島の森(駆除活動)	日本の侵略的外来種ワースト100

(5) 淡水魚類

No.	目	科名	和名	学名	特定外来生物	生態系被害防止外来種リスト区分	国内外外来種	県内分布	県内の被害状況	福島県対策優先カテゴリー	被害の深刻度に関する基準	対策事例	備考
1	コイ目	コイ科	コイ(飼育型)	<i>Cyprinus carpio</i> Linnaeus 1758				浜通り、中通り、会津	生態系、生物多様性	重点対策外来種	①③		多くの水域に放流され県内各地で繁殖している。
2	コイ目	コイ科	タイリクバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i> (Kner 1866)		重点対策外来種		浜通り、中通り、会津(会津盆地)	生態系、生物多様性	重点対策外来種	①③		県内各地で繁殖している。
3	コイ目	ドジョウ科	カラドジョウ	<i>Misgurnus dabryanus</i> (Dabry de Thiersant 1872)		その他の総合対策外来種		浜通り、中通り、会津(会津盆地)	生態系、生物多様性	重点対策外来種	①③		県内各地で繁殖している。
4	ナマズ目	アメリカナマズ科	チャネルキャットフィッシュ	<i>Ictalurus punctatus</i> (Rafinesque 1818)	○	緊急対策外来種		阿武隈川水系(須賀川市より下流)	生態系、生物多様性	緊急対策外来種	①③④	福島県内水面水産試験場による駆除。その他、福島河川国道事務所、県内各漁業組合、地域活動グループによる駆除活動。	阿武隈川で繁殖している。
5	サケ目	サケ科	ニジマス	<i>Oncorhynchus mykiss</i> (Walbaum 1792)		産業管理外来種		浜通り、中通り、会津	生態系、生物多様性	産業管理外来種	②③		檜枝岐村(尾瀬)などで繁殖の可能性あり。
6	サケ目	サケ科	ブラウントラウト	<i>Salmo trutta</i> Linnaeus 1758		産業管理外来種		久慈川水系小田川(矢祭町)、裏磐梯(北塩原村)、阿武隈川支流天戸川	生態系、生物多様性	産業管理外来種	②③		県内での自然繁殖はなしと思われる。

No.	目	科名	和名	学名	特定外来生物	生態系被害防止外来種リスト区分	国内外来種	県内分布	県内の被害状況	福島県対策優先カテゴリー	被害の深刻度に関する基準	対策事例	備考
7	サケ目	サケ科	カワマス	<i>Salvelinus fontinalis</i> (Mitchill 1814)		その他の総合対策外来種		裏磐梯(北塩原村), 南会津町	生態系, 生物多様性	産業管理外来種	②③		県内での自然繁殖なしと思われる。
8	スズキ目	サンフィッシュ科	ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus macrochirus Rafinesque</i>	○	緊急対策外来種		浜通り, 中通り, 会津	生態系, 生物多様性, 経済活動	緊急対策外来種	①②③④	福島県内水面水産試験場による駆除。その他, 福島国道事務所, 県内各漁業組合, 地	県内各地で繁殖している。
9	スズキ目	サンフィッシュ科	オオクチバス	<i>Micropterus nigricans</i> (Cuvier 1828)	○	緊急対策外来種		浜通り, 中通り, 会津	生態系, 生物多様性, 経済活動	緊急対策外来種	①②③④	福島県内水面水産試験場による駆除。その他, 福島国道事務所, 県内各漁業組合, 地域活動グループによる駆除活動。	県内各地で繁殖している。
10	スズキ目	サンフィッシュ科	コクチバス	<i>Micropterus dolomieu dolomieu Lacepède 1802</i>	○	緊急対策外来種		浜通り, 中通り, 会津	生態系, 生物多様性, 経済活動	緊急対策外来種	①②③④	福島県内水面水産試験場による駆除。その他, 福島国道事務所, 県内各漁業組合, 地域活動グループによる駆除活動。	県内各地で繁殖している。
11	コイ目	コイ科	カネヒラ	<i>Acheilognathus rhombeus</i> (Temminck & Schlegel 1846)			○	猪苗代湖(猪苗代町)	生態系, 生物多様性	重点対策外来種	②③		国内の自然分布は琵琶湖淀川水系以西の本州, 九州北西部。
12	コイ目	コイ科	モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i> (Temminck & Schlegel 1846)		その他の総合対策外来種	○	浜通り, 中通り, 会津	生態系, 生物多様性	重点対策外来種	③		国内の自然分布は関東地方以西の本州, 四国, 九州。シナイモツゴへの影響甚大。
13	コイ目	フクドジョウ科	フクドジョウ	<i>Barbatula oreas</i> (Jordan & Fowler 1903)			○	浜通り, 中通り, 会津(会津盆地), 県内各地で繁殖している。	生態系	重点対策外来種	③		国内の自然分布は北海道。

(6) 昆虫類

No.	目	科名	和名	学名	特定外来生物	生態系被害防止外来種リスト区分	国内外来種	県内分布	県内の被害状況	福島県対策優先カテゴリー	被害の深刻度に関する基準	対策事例	備考
1	アザミウマ目	アザミウマ科	ミカンキイロアザミウマ	<i>Frankliniella occidentalis</i> (Pergande)				福島市, 会津美里町, 湯川村, いわき市など県内全域から記録されている。北塩原村といわき市で現認した。	栽培キク, トマト, キュウリ, イチゴなど多くの作物で被害が確認されている	その他の総合対策外来種	④	福島県農業総合センター生産環境部作物保護科による資料「県内で採集したキクのアザミウマ類に対する各種薬剤の殺虫効果」において, 福島市(ハウス), あいつ美里町, 湯川村(ハウス), いわき市での事例が示されている。	日本の侵略的外来種ワースト100, TSWV, INSVの媒介種である。
2	アザミウマ目	アザミウマ科	ネギアザミウマ	<i>Thrips tabaci Lindeman</i>				県内では広く記録されている。会津地方南会津地区における分布は不明だが, 尾瀬ヶ原(福島県域か群馬県域かは不明)からは記録されている。	農作物に甚大な被害を生じさせるオルソトスボウイルスのベクターである。ネギ, タマネギなどの野菜類, 各種の果樹, 花卉(トルコギキョウ)の被害は特に甚大である。県内においては, ネギやアスパラガスなどで被害が見られる。ネギでは葉を中心にカスリ状の白斑を生じる。萌芽直後のアスパラガス若茎に多数寄生すると茎が屈曲することがある。また, 軽微なようではあるが, IYSV(アイリス黄斑ウイルス)によるトルコギキョウやネギ属作物への被害が生じている。	その他の総合対策外来種	④	県農業総合センターが各種薬剤の殺虫効果を公表するなど, 対策を講じている。	中央アジア起源とされ, タマネギや花卉類とともに世界中に拡がった可能性が高いとされる。
3	アザミウマ目	クダアザミウマ科	カキクダアザミウマ	<i>Ponticulothrips diaspynosi Haga and Okajima</i>				福島市(福島大学金谷川キャンパス内及びその周辺域)から記録されている。1988年に県内初記録, その後, 1996年までに南会津地区を除く全県から記録されており, 現在はすでに県内全域に分布しているものと思われる。	カキの展葉し始めた葉に虫こぶ(葉巻状の虫こぶ)を形成し, その内側に産卵する。成虫と幼虫は葉を加害し, 幼虫は幼果(子房と「へた」の間隙に侵入)も加害し, 加害痕を生じさせ, 商品価値を低下させる。	その他の総合対策外来種	④	県果樹試験場や農林事務所から発生生態と防除に関する情報が発信されている。	1975年に岡山県で発見されるまで, カキの被害はなかったため, 外来種と考えられているが, これまでに国外からの記録はない。
4	カメムシ目	ゲンバイムシ科	アワダチソウゲンバイ	<i>Corythucha marmorata</i> (Uhler)				県内全域, 現認(相馬市, 南相馬市, 伊達市, 福島市, 三春町)。	福島県病害虫防除所から平成20年度病害虫発生予察特殊報第3号が発出されており, 栽培ヒマワリやキクでの被害が報告されている。	その他の総合対策外来種	④		
5	コウチュウ目	カミキリムシ科	ツヤハダゴマダラカミキリ	<i>Anoplophora glabripennis</i> (Motschulsky)				中通りを中心に浜通り, 会津の一部, 県北, 県南地域を中心に20市町村で発生が確認されている。(伊達市霊山町, 月館町, 柳川町, 白河市南湖森林公園)	トチノキ, カツラを中心に, ヤナギ類などで被害が確認されている。	緊急対策外来種	①④	被害が確認された街路樹等の伐採。	世界の侵略的外来種ワースト100, 福島県ホームページによる情報 (https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16035b/kubiakatuyakamikiri.html)
6	コウチュウ目	カミキリムシ科	サビイロクワカミキリ	<i>Apriona swainsoni</i> <i>swainsoni</i> (Hope)				県中地域を中心に県内19市町村(福島県HP), 現認(郡山市, 猪苗代町)。	イヌエンジュ, エンジュ(猪苗代町ではイヌエンジュのみで確認)。民家敷地内, 農地, 市街地に植栽されたイヌエンジュを主に被害する。郡山市を中心に19市町村で生息が確認されている。なお, 会津地方南部では, 下郷町でのみ生息が確認されているが, 隣接する南会津町のほか, 柳津町, 三島町, 金山町, 昭和村, 只見町におけるイヌエンジュの植栽木では確認されていない。	緊急対策外来種	①④	被害が確認された街路樹等の伐採。	福島県ホームページによる情報 (https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16035b/kubiakatuyakamikiri.html)
7	チョウ目	タテハチョウ科	アカボシゴマダラ	<i>Hestina assimilis</i> (Linnaeus)	○	重点対策外来種		【浜通り】いわき市(小名浜・下神白・平・常磐原町・山田町・植田町), 楢葉町(山田), 富岡町(本岡日向), 川内村(五社山)・現認(南相馬市) 【中通り】福島市(古川・山口・飯野町・弁天山), 郡山市(逢瀬町), 須賀川市(狸森・滝), 伊達市(梁川町), 田村市(船引町), 玉川村(南須釜), 矢吹町(井戸尻・三城目・田町・住吉), 古殿町(芝山・鎌倉岳), 石川町(北町) 【会津】喜多方市(慶徳町), 猪苗代町(川桁)	在来種のおオムラサキ, ゴマダラチョウ, テングチョウなどと食樹(エノキ)を同じくするが, 現在の所競合等による影響は見られない。しかし更なる分布域と個体数の拡大次第では在来種への影響も懸念される。	重点対策外来種	①	採集駆除	中国大陸及び朝鮮半島由来の名義タイプ亜種。本県では2013年猪苗代町川桁における記録が初めて報告された。
8	チョウ目	ヒトリガ科	アメリカシロヒトリ	<i>Hyphantria cunea</i>				全県的に分布しているものと思われる。	街路樹, 庭木として利用される広葉樹を広く幼虫が食害する。福島市内では特にサクラ類, オニグルミなどの食害が甚大。	その他の総合対策外来種	①	幼虫は極めて広食性で, 街路樹や庭木などを食害するため, 各自治体から発生と注意喚起(防除依頼)に関する広報がされており, 福島市と郡山市では2011年以降の誘殺情報が県HPにて公表されている。	日本の侵略的外来種ワースト100
9	ハチ目	ミツバチ科	セイヨウオオマルハナバチ	<i>Bombus terrestris</i>	○	産業管理外来種		福島市, 新地町, 南相馬市, 南会津町から記録されており, 全県的に分布しているものと思われる。	在来マルハナバチ類との営巣場所, エサ資源をめぐる競合によって, 在来種の減少が生じる。また, それに伴って, 在来種に受粉を依存する植物の繁殖率が低下する。	産業管理外来種		不明	日本の侵略的外来種ワースト100

No.	目	科名	和名	学名	特定外来生物	生態系被害防止外来種リスト区分	国内外来種	県内分布	県内の被害状況	福島県対策優先カテゴリー	被害の深刻度に関する基準	対策事例	備考
-----	---	----	----	----	--------	-----------------	-------	------	---------	--------------	--------------	------	----

(7) その他無脊椎動物

No.	目	科名	和名	学名	特定外来生物	生態系被害防止外来種リスト区分	国内外来種	県内分布	県内の被害状況	福島県対策優先カテゴリー	被害の深刻度に関する基準	対策事例	備考
-----	---	----	----	----	--------	-----------------	-------	------	---------	--------------	--------------	------	----

節足動物門甲殻綱

1	十脚目	ザリガニ科	ウチダザリガニ	<i>Pacifastacus leniusculus (Dana)</i>	○	緊急対策外来種		喜多方市（阿賀川）、北塩原村、猪苗代町、磐梯町（情報のみ）、二本松市（安達湖）、須賀川市（砂防ダム湖）、天栄村（情報のみ）、西郷村（堀川ダム及び堀川）、いわき市（小玉ダム湖）	堀川ダム湖内やダム堤体下流域では生息する底生動物の個体数に影響を及ぼしたと思われる。特にダム湖内では顕著。猪苗代平野に侵入した個体群は、水田の水路に侵入し、巣穴を穿つことによって、畦を崩壊させている。その補修に莫大な費用がかかっている。	緊急対策外来種	①②③④	西郷村堀川ダム湖及び堀川流域では西郷村が中心となり、駆除活動が実施されている。いわき市小玉ダムでも駆除活動が実施されている模様。猪苗代平野では地元農家を中心に駆除隊（Gmens）が組織され、駆除活動が実施されている。	日本の侵略的外来種ワースト100
2	十脚目	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii (Girard)</i>	○	緊急対策外来種		浜通り地方、中通り地方、会津地方それぞれから記録されており、県内には広く分布している。南会津町田島紙園公園の池、その下流側の水田水路に生息。	福島市内で生息が確認されている池沼の中には、池沼内に底生動物がほとんど確認できない状況の場所もある。池沼内に侵入することで、水生昆虫類の産卵床となる抽水植物が壊滅し、甚大な影響を及ぼしている。会津地方における国内希少野生動物植物種の生息地への2021年4月の侵入を確認している。	緊急対策外来種	①②③		日本の侵略的外来種ワースト100
3	十脚目	ヌマエビ科	カワリヌマエビ属種群	<i>Neocaridina spp.</i>				浜通り地方、中通り地方の河川には広く分布しているものと考えられる。現認（小高区内の河川、相馬市松川浦の沼、湿地、福島市内の河川）、文献（阿武隈川中下流域全域）。	福島市内の河川ではヌマエビに置き換わるように個体数が増えている。	その他の総合対策外来種	①		主にシナヌマエビ（ <i>N. davidi</i> (Bouvier)）とされるが、複数種が含まれる可能性もある。
4	端脚目	マミズヨコエビ科	フロリダマミズヨコエビ	<i>Crangonyx floridanus Bousfield</i>		その他の総合対策外来種		浜通り地方、中通り地方、会津地方それぞれから記録されており、県内には広く分布している。南会津町田島紙園公園の池、その下流側の水田水路に生息。		その他の総合対策外来種	①		

節足動物門蛛形綱

1	真正クモ目	ヒメグモ科	セアカゴケグモ	<i>Latrodectus hasselti Thorell</i>	○	緊急対策外来種		未定着、ただし、会津若松市（2013年9月4日）と三春町（2015年10月9日）から確認情報があった。	なし（ただし、人の生命・身体に甚大な被害を及ぼす危険性があるため、県による注意喚起はなされている）	重点対策外来種	④	福島県のHPにて、注意喚起（発見したときの対処方法、駆除方法など）がなされている。	日本の侵略的外来種ワースト100
---	-------	-------	---------	-------------------------------------	---	---------	--	---	---	---------	---	---	------------------

軟体動物門

1	柄眼目	コウラナメクジ科	マダラコウラナメクジ	<i>Limax maximus (Linnaeus)</i>		その他の総合対策外来種		詳細は不明であるが、2010年に初確認。只見町では畑地に広く生息しており、民家周辺や畑でも普通にみられるナメクジになっている。家の中に侵入してくるし、ビッドフォールトラップにも落ちる。定着していることは確実。猪苗代町でも現認されている。	畑地が多いが、農作物への加害は不明。只見の特産である「えごま（じゅうねん）」の新芽を食べる。	その他の総合対策外来種			webによる情報（本種の研究者である宇高寛子氏（京都大学）のacademist（学術系クアラファン）のwebページの分布図）。2019年に只見町での発見が福島民友で取り上げられたが、その2〜3年ほど前から見つけられているため、侵入時期は2017年頃と推測される。
2	マルスダレガイ目	シジミガイ科	タイワンシジミ種群	<i>Corbicula fluminea-species complex</i>		その他の総合対策外来種		県内各地の湖沼、池沼、河川に侵入しているものと思われる。現認（裏磐梯五色沼湖沼群鹿沙門沼、会津川、早稲沢の水路、表磐梯の長瀬川、猪苗代湖、猪苗代町、福島市、南相馬市の河川）、文献（摺上川ダム、阿武隈川：大仏大橋、金山橋、新飯野橋、三春ダム）。	猪苗代湖ではマジシが激減してしまっが、タイワンシジミの個体数と分布拡大の原因であると思われる。	その他の総合対策外来種	①③		相馬市、南相馬市原町区太田川水系、福島市濁川流域、須賀川市稲川流域、棚倉町逆川地区周囲の水路、会津若松市門田地区で確認。伊達市保原高子沼周辺、福島市岡島宮畑遺跡、白河市南湖公園の生息個体も外来シジミ類と思われる。

線形動物門

1	葉線虫目	アフエレンクス科	マツノザイセンチュウ	<i>Bursaphelenchus xylophilus (Steiner & Buhrer) Nickle</i>		その他の総合対策外来種		松枯れが発生している地域には広く分布している。会津地方（会津、南会津）、中通り地方（県北、県中、県南）、浜通り地方（相双、いわき地区）で確認されている。	福島県では1976年2月に郡山市で初確認されたが、平成30年度の林野庁の統計データによれば、被害量は全国第2位（329,000m ³ ）となっている。	その他の総合対策外来種	①④	自治体によっては、被害拡大防止のため、松枯れ病の発生の情報提供を呼びかけたり、被害への対応方法を紹介したりしている。	
---	------	----------	------------	---	--	-------------	--	--	--	-------------	----	--	--

外肛動物門

1	掩喉目	オオマリコケムシ科	オオマリコケムシ	<i>Pectinatella magnifica (Leidy)</i>				摺上川ダムでは2015年、2020年に確認されている。文献（阿武隈川：弁天橋、新飯野橋、摺上川ダム）、Web情報（須賀川市牡丹園、矢吹町）	個虫は1.5mmほどであるが、巨大な群体を形成し、ダム湖やため池などで大発生することもあるため、景観を損ねたり、死んだ群体による腐敗臭や取水口・水門を詰まらせるなどの被害が生じる可能性がある。	その他の総合対策外来種	④		尾瀬沼での目撃例もある。
---	-----	-----------	----------	---------------------------------------	--	--	--	---	--	-------------	---	--	--------------

(8) 植物

No.	高次分類群名	科名	和名	学名	特定外来生物	生態系被害防止外来種リスト区分	国内外来種	県内分布	県内の被害状況	福島県対策優先カテゴリー	被害の深刻度に関する基準	対策事例	備考
1	シダ植物	サンショウモ科	外来アゾラ類	<i>Azolla spp.</i>		緊急対策外来種（アゾラ・クリスタタ）		浜通りの低地。前河浦（南相馬市）など津波被災地で特に顕著である。	ため池や水たまり、流れが緩やかな水路などで大繁殖し、水面の一面を覆う。	重点対策外来種	①②③		分類が難しく、現時点では特定外来生物のアゾラ・クリスタタを他の外来アゾラと区別するのは困難である。
2	被子植物	ジュンサイ科	フサジュンサイ	<i>Cabomba caroliniana A.Gray</i>		重点対策外来種		浜通りと中通りの低地と盆地。定着箇所はまだ少なく、いわき市と白河市（小南湖）で確認され、かつて南湖にも生育していた。	ため池で時に一面に繁茂する。	重点対策外来種	①②③		別名ハゴロモモ。

No.	目	科名	和名	学名	特定外来生物	生態系被害防止外来種リスト区分	国内外来種	県内分布	県内の被害状況	福島県対策優先カテゴリー	被害の深刻度に関する基準	対策事例	備考
3	被子植物	スイレン科	園芸スイレン	<i>Nymphaea sp.</i>		重点対策外来種		県内ほぼ全域の低地から山地。	湖沼、ため池などで繁茂している。時に景勝地で湖面全域を覆い景観を悪化させ、ボートの走行や釣りなどを阻害する。	緊急対策外来種	①②③	矢の原湿原で駆除により消失した。南湖公園で継続的な駆除が行われている。	花が美しいことから保全の対象とされることがあるため、普及・啓発が重要である。
4	被子植物	トチカガミ科	オオカナダモ	<i>Egeria densa Planch.</i>		重点対策外来種		県内ほぼ全域の低地から山地。	湧水や湧水のある小川や湖沼で繁茂する。	重点対策外来種	①②③		
5	被子植物	トチカガミ科	コカナダモ	<i>Eloдея nuttallii (Planch.) St.John</i>		重点対策外来種		県内ほぼ全域の低地から亜高山。裏磐梯、尾瀬沼、猪苗代湖などで特に顕著である。	湖沼、ため池、溪流、用水路などで繁茂し、時に景勝地で湖面全域を覆い景観を悪化させ、ボートの走行や釣りなどを阻害する。	緊急対策外来種	①②③④	南湖公園では駆除によりほぼ消失している。裏磐梯（五色沼湖沼群周辺、曲沢沼）、南湖公園周辺で継続的な駆除が行われている。	
6	被子植物	トチカガミ科	アマゾントチカガミ	<i>Limnobia laevigatum (Humb. et Bonpl. ex Willd.) Heine</i>		重点対策外来種		福島市の盆地。	伏流水のある池に生育する。定着箇所は1箇所であるが密に生育している。	重点対策外来種	①②③		
7	被子植物	ユリ科	タカサゴユリ	<i>Lilium formosanum A.Wallace</i>		その他の総合対策外来種		浜通りと中通りの低地から丘陵地。	草地、空き地、路傍、土手などで繁茂している。	その他の総合対策外来種			分類が難しく、現在の知見ではシンテッポウユリとの区別が難しい。花が美しいことから庭や花壇に植えたり、草刈りの際に刈り残されることがあるため、普及・啓発が重要である。
8	被子植物	ユリ科	シンテッポウユリ	<i>Lilium x formolongo Hort.</i>		その他の総合対策外来種		浜通りと中通りの低地から丘陵地。	草地、空き地、路傍、土手などで繁茂している。	その他の総合対策外来種			分類が難しく、現在の知見ではタカサゴユリとの区別が難しい。花が美しいことから庭や花壇に植えたり、草刈りの際に刈り残されることがあるため、普及・啓発が重要である。
9	被子植物	アヤメ科	キショウブ	<i>Iris pseudacorus L.</i>		重点対策外来種		県内ほぼ全域の低地から山地。裏磐梯、猪苗代湖の湖沼の他、南湖公園、中村城など水辺を伴う史跡等で特に顕著である。	湖沼岸、湿地、川岸や河川敷などで繁茂し、湿地植物や湿地の希少植物の生育に悪影響を与え、景勝地を含む各地で目立つ黄色い花で夏の景観を大きく変えてしまっている。	緊急対策外来種	①②③	裏磐梯（五色沼湖沼群周辺）、南湖公園で継続的な駆除が行われている。	花が美しいことから草刈りの際に刈り残されることがあるため、普及・啓発が重要である。
10	被子植物	キジカクシ科	アツバキミギヨラン	<i>Yucca gloriosa L.</i>		重点対策外来種		海岸。いわき市内で顕著である。	砂浜に生育する。尖った葉が海水浴客などに危険である。植物体が大型なので、砂浜の景観を変えてしまう。	重点対策外来種	①②③④	福島県により駆除が行われたことがある。	
11	被子植物	ヤシ科	シュロ	<i>Trachycarpus fortunei (Hook.) H.Wendl.</i>		その他の総合対策外来種（国内由来の外来種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種、九州北部以北の森林内など）		浜通りと中通りの低地と盆地。	畑や庭で栽培され、里地や里山の様々な環境に逸出することがある。	産業管理外来種	①②③		
12	被子植物	カヤツリグサ科	メリケンガヤツリ	<i>Cyperus eragrostis Lam.</i>		重点対策外来種		浜通りの低地。	河川敷や湿地に生育する。	重点対策外来種	①②③		
13	被子植物	イネ科	コヌカグサ	<i>Agrostis gigantea Roth</i>		産業管理外来種		県内ほぼ全域の海岸、低地から亜高山。仙台平（田村市）などで特に顕著である。	草地、路傍、林縁などで繁茂し、特に牧草地や緑化を行った道路斜面などで一面に生育している。	重点対策外来種	①②③		飼料や緑化に用いられており、レッドトップの名で流通している。
14	被子植物	イネ科	クロコヌカグサ	<i>Agrostis nigra With.</i>		産業管理外来種		会津の亜高山。	尾瀬（沼山峠）で生育が確認された。	重点対策外来種	①②③		
15	被子植物	イネ科	ハルガヤ	<i>Anthoxanthum odoratum L.</i>		その他の総合対策外来種		県内ほぼ全域の海岸、低地から亜高山。	草地、路傍、林縁、疎林などで繁茂している。	その他の総合対策外来種	①②③		牧草として使われたことがあった。スイートバーナグラスの名でハーブとして流通している。
16	被子植物	イネ科	カモガヤ	<i>Dactylis glomerata L.</i>		産業管理外来種		県内ほぼ全域の低地から亜高山。	路傍、草地、林縁、空き地、土手などの至る所で繁茂する。	産業管理外来種	①②③④		花粉症の原因植物となっている。飼料や緑化に優れ、広く用いられる。オーチャードグラスの名で現在でも広く流通している。
17	被子植物	イネ科	シナダレスズメガヤ	<i>Eragrostis curvula (Schrad.) Nees</i>		重点対策外来種		県内ほぼ全域の低地から山地。	草地、河川敷、路傍などで繁茂する。阿武隈川と荒川の河川生態系に特に大きな悪影響を与えている外来植物の一つとして挙げられている。	重点対策外来種	①②③		かつて土止めとして利用された。ウィーピンググラスの名で流通していた。
18	被子植物	イネ科	ネズミムギ	<i>Lolium multiflorum Lam.</i>		産業管理外来種		県内ほぼ全域の海岸、低地から山地。	路傍、草地、林縁、空き地、土手などの至る所に生育する。	産業管理外来種	①②③		飼料や緑化に優れ、広く用いられる。イタリアンライグラスの名で現在も広く流通している。
19	被子植物	イネ科	ホソムギ	<i>Lolium perenne L.</i>		産業管理外来種		県内ほぼ全域の低地から山地。	路傍、草地、林縁、空き地、土手などに生育する。	産業管理外来種	①②③		飼料や緑化に優れ、広く用いられる。ペレニアルライグラスの名で現在も広く流通している。
20	被子植物	イネ科	アメリカスズメノヒエ	<i>Paspalum notatum Flügge</i>		産業管理外来種		浜通りと中通りの低地や盆地。	路傍、耕作地周辺などに生育する。	重点対策外来種	①②③		飼料や緑化に用いられる。パビアグラスの名で流通している。
21	被子植物	イネ科	オオアワガエリ	<i>Phleum pratense L.</i>		産業管理外来種		県内ほぼ全域の低地から亜高山。	路傍、草地、林縁、空き地、土手などの至る所に生育する。	産業管理外来種	①②③④		花粉症の原因植物となっている。飼料や緑化に優れ、広く用いられる。チモシーの名で現在でも広く流通している。
22	被子植物	イネ科	モウソウチク	<i>Phyllostachys edulis (Carrière) Houz.</i>		産業管理外来種		浜通りと中通りの低地から丘陵地。	里地や里山に植えられ、放置された場所で周辺に広がっている。	産業管理外来種	①②③		タケノコが食用にされ、竹細工などに用いられる。
23	被子植物	イネ科	ハチク	<i>Phyllostachys nigra (Lodd. ex Loud.) Munro var. henonis (Bean ex Mitford) Stapf ex Rendle</i>		産業管理外来種		浜通りと中通りの盆地から山地。	里地や里山に植えられ、放置された場所で周辺に広がっている。	産業管理外来種	①②③		モウソウチクよりも種であるが、タケノコが食用にされ、竹細工などに用いられる。
24	被子植物	イネ科	マダケ	<i>Phyllostachys reticulata (Rupr.) K.Koch</i>		産業管理外来種		中通りの盆地。	里地や里山に植えられ、放置された場所で周辺に広がっている。阿武隈川河川敷で繁茂し、陸地化など治水への悪影響もおおぼしている。	重点対策外来種	①②③④		タケノコが食用にされ、竹細工などに用いられる。
25	被子植物	イネ科	オニウシノケグサ	<i>Schedonorus phoenix (Scop.) Holub</i>		産業管理外来種		県内ほぼ全域の海岸、低地から亜高山。	草地、路傍、空き地、土手などで繁茂する。	その他の総合対策外来種	①②③		飼料や緑化に用いられる。トールフェスク、ケンタッキー-31フェスクの名で流通している。
26	被子植物	イネ科	セイバンモロコシ	<i>Sorghum propinquum (Kunth) Hitchc.</i>		その他の総合対策外来種		浜通りと中通りの低地から丘陵地。	土手や路傍で繁茂する。	その他の総合対策外来種			
27	被子植物	イネ科	ナギナタガヤ	<i>Vulpia myuros (L.) C.C.Gmel.</i>		産業管理外来種		県内ほぼ全域の海岸、低地から山地。	路傍、芝生、草地、空き地、土手などの至る所で繁茂する。	重点対策外来種	①②		果樹園の下草に用いられ、現在でも流通している。

No.	目	科名	和名	学名	特定外来生物	生態系被害防止外来種リスト区分	国内外来種	県内分布	県内の被害状況	福島県対策優先カテゴリー	被害の深刻度に関する基準	対策事例	備考
28	被子植物	ケシ科	コマクサ	<i>Dicentra peregrina (Rudolph) Makino</i>		重点対策外来種 (国内由来の外来種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種、白山など高山帯)	○	自生は燧ヶ岳で知られる。	吾妻山に最近出現した。自生か播種されたものか不明である。	重点対策外来種	①②③		
29	被子植物	アリノトウグサ科	オオフサモ	<i>Myriophyllum aquaticum (Vell.) Veldc.</i>	○	緊急対策外来種		浜通りと中通りの低地から丘陵地。	池や水路などで繁茂している。現在知られている生育箇所は数カ所で、まだ少ない。	重点対策外来種	①②③		
30	被子植物	マメ科	イタチハギ	<i>Amorpha fruticosa L.</i>		重点対策外来種		県内ほぼ全域の海岸、低地から亜高山。	草地、湿地、河岸、路傍、林縁などで繁茂し、湿地植生や湿地の希少植物の生育に悪影響を与えている。2001年以降阿武隈川の支流から下流までの広く確認されるようになっており、阿武隈川と荒川の河川生態系に特に大きな悪影響を与えている外来植物の一つとして挙げられている。海岸防災林事業区内に設けられた保護区で繁茂している。	重点対策外来種	①②③	尾瀬(御池)で継続的に駆除が行われている。	緑化に盛んに用いられた。別名クロバナエンジュ。
31	被子植物	マメ科	ハリエンジュ	<i>Robinia pseudoacacia L.</i>		産業管理外来種		県内ほぼ全域の低地から亜高山。	河川や湖沼沿いに繁茂しているほか、緑化により植林、植樹された海岸林、里地・里山の周辺に広く逸出している。目立つ白い花で春の里地の景観を大きく変えてしまっている。阿武隈川では上流から下流までの広い面積を占有しており、阿武隈川と荒川の河川生態系に特に大きな悪影響を与えている外来植物の一つとして挙げられている。河川巡視時やモニターの視界不良をもたらすなど、治水への悪影響もおよぼしている。	重点対策外来種	①②③④		繁茂の面積や治水への影響などから福島県内で最も対策が必要な外来種の一つであるが、有効な駆除方法が確立していないため重点対策外来種としている。別名ニセアカシア。「アカシア蜂蜜」の蜜源として有用な樹種で現在でも盛んな利用がある。駆除の前に、所有者、管理者、利用者がいないか確認し、いる場合は周辺への逸出防止などの管理を依頼した上で、利用を認めることも必要である。
32	被子植物	マメ科	ナヨクサフジ	<i>Vicia villosa Roth subsp. varia (Host) Corb.</i>		産業管理外来種		中通りと会津の盆地。	河川敷、路傍などに生育する。	重点対策外来種	①②③		飼料や緑肥に用いられる。スムズベッチの名で流通している。
33	被子植物	マメ科	ピロードクサフジ	<i>Vicia villosa Roth subsp. villosa</i>		産業管理外来種		県内ほぼ全域の低地や盆地。	河川敷、路傍などに生育する。	重点対策外来種	①②③		飼料や緑肥に用いられる。ヘアリーベッチの名で流通している。
34	被子植物	バラ科	ビワ	<i>Eriobotrya japonica (Thunb.) Lindl.</i>		産業管理外来種		県内ほぼ全域の低地と盆地。	里地や里山に植えられ、放置された場所で周辺に広がることもある。	産業管理外来種	①②		果実が食用にされる。
35	被子植物	ウリ科	アレチウリ	<i>Sicyos angulatus L.</i>	○	緊急対策外来種		県内ほぼ全域の海岸、低地から山地。	河川敷、林縁、畑、路傍、土手などの至る所で繁茂する。木本も含めて植生を覆い尽くし、景色を一変させる。阿武隈川全域の河川敷や堤防の至る所で大繁茂しており、阿武隈川と荒川の河川生態系に特に大きな悪影響を与えている外来植物の一つとして挙げられている。	緊急対策外来種	①②③④	南湖公園、裏磐梯(小野川湖周辺)、福島大学金谷川キャンパスで継続的に駆除が行われている。	
36	被子植物	アカバナ科	コマツヨイグサ	<i>Oenothera laciniata Hill</i>		重点対策外来種		浜通りの海岸、低地から山地。	砂浜などの海岸などで繁茂している。	重点対策外来種	①②③		
37	被子植物	ニガキ科	ニワウルシ	<i>Ailanthus altissima (Mill.) Swingle</i>		重点対策外来種		福島市や郡山市など、盆地や平野の市街地周辺等。	道路や鉄道の土手などで繁茂している。	重点対策外来種	①②③④		別名シンジュ。樹液が皮膚に付くとかぶれることがある。
38	被子植物	アブラナ科	ハルザキヤマガラシ	<i>Barbarea vulgaris R.Br.</i>		その他の総合対策外来種		県内ほぼ全域の低地から山地。	草地、湿地、河岸、路傍などで繁茂し、特に河川敷や堤に一面の群落を作り、目立つ黄色い花で春の河川の景観を大きく変えてしまっている。	重点対策外来種	①②③		
39	被子植物	アブラナ科	オランダガラシ	<i>Nasturtium officinale R.Br.</i>		重点対策外来種		県内ほぼ全域の低地から亜高山。	溪流、水路などで繁茂している。ジャコウイ生育地、尾瀬ヶ原など生物多様性保全上重要な場所にも生育している。	重点対策外来種	①②③	尾瀬ヶ原で継続的な駆除が行われている。	食用にクレソンの名で流通している。オオバタネツケバナなど同所に生育する類似種との区別は難しく、誤認で駆除してしまう事例が時々見られる。
40	被子植物	タデ科	エゾノギンギン	<i>Rumex obtusifolius L.</i>		その他の総合対策外来種		県内ほぼ全域の低地から亜高山。	草地、路傍、空き地、土手などで繁茂する。保護上重要な植物であるノダイオウと盛んに交雑する。雑種トガマイオウは県内のノダイオウ分布域の各地で確認されている。	その他の総合対策外来種			
41	被子植物	タデ科	トガマイオウ	<i>Rumex x hybridus Kindb.</i>				県内ほぼ全域の低地から亜高山。	路傍や林縁に生育する。保護上重要な植物であるノダイオウと外来種であるエゾノギンギンの雑種と考えられている。ノダイオウと戻し交雑する可能性が指摘されている。	重点対策外来種	③		
42	被子植物	スベリヒユ科	ヒメマツバボタン	<i>Portulaca pilosa L.</i>		重点対策外来種		いわき市の低地。	砂利道に生育する。1箇所を確認された。	重点対策外来種	①②③		
43	被子植物	マタタビ科	キウイフルーツ	<i>Actinidia chinensis Planch. var. deliciosa (A.Cheval.) A.Cheval.</i>		産業管理外来種		県内ほぼ全域の低地から山地。	畑や庭で栽培され、里地や里山の様々な環境に逸出することがある。	産業管理外来種	①②		
44	被子植物	キョウチクトウ科	ツルニチニチソウ	<i>Vinca major L.</i>		重点対策外来種		県内ほぼ全域の低地から山地。	庭園などで栽培され、しばしば逸出し、里地の路傍、疎林などで繁茂する。	重点対策外来種	①②		
45	被子植物	ヒルガオ科	マメアサガオ	<i>Ipomoea lacunosa L.</i>		重点対策外来種		県内ほぼ全域の低地から丘陵地。	路傍に生育する。定着箇所は少ない。	重点対策外来種	①②		
46	被子植物	オオバコ科	イケノミズハコベ	<i>Callitriche stagnalis Scop.</i>		重点対策外来種		浜通りの低地。	湧水や小川などで繁茂する。	重点対策外来種	①②③		湧水に侵入して繁茂すると駆除が困難なので、早期の対応が重要である。
47	被子植物	オオバコ科	オオバコ	<i>Plantago asiatica L.</i>		重点対策外来種 (国内由来の外来種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種、高山帯)	○	県内ほぼ全域の低地から高山。	ハクサンオオバコ(福島県では飯豊山の高山帯のみに分布する)との交雑が危惧されているが、福島県では研究が進んでおらず、交雑の実体は不明である。路傍、空き地、草地などで繁茂する。	重点対策外来種(飯豊山において)	①②③		
48	被子植物	オオバコ科	オオカワヂシャ	<i>Veronica anagallis-aquatica L.</i>	○	緊急対策外来種		県内ほぼ全域の低地と盆地。	河川、水路で繁茂する。阿武隈川で生育している場所では一面に繁茂して、他の植物の生育を抑制している様子が見られることから、阿武隈川と荒川の河川生態系に特に大きな悪影響を与えている外来植物の一つとして挙げられている。在来で保護上重要な植物のカワヂシャと交雑することが知られており、福島県内でも雑種のホナガカワヂシャが確認されている。	重点対策外来種	①②③		
49	被子植物	ゴマノハグサ科	フサフジツツギ	<i>Buddleja davidii Franch.</i>		重点対策外来種		会津の盆地。	路傍に生育する。定着箇所は少ない。	重点対策外来種	①②		園芸に用いられ、ブッドレアの名で流通している。別名チチフジツツギ。

No.	目	科名	和名	学名	特定外来生物	生態系被害防止外来種リスト区分	国内外来種	県内分布	県内の被害状況	福島県対策優先カテゴリー	被害の深刻度に関する基準	対策事例	備考
50	被子植物	シソ科	コショウハッカ	<i>Mentha x piperita L.</i>				会津の盆地から山地。特に裏磐梯で顕著である。	湖沼岸、湿地などで繁茂する。	重点対策外来種	①②③	裏磐梯（五色沼湖沼群周辺）で継続的な駆除が行われている。	黒沢・糖（2016）では「オランダハッカ」として扱われている。
51	被子植物	キク科	オオブタクサ	<i>Ambrosia trifida L.</i>		重点対策外来種		県内ほぼ全域の海岸、低地から丘陵地。阿武隈川などで特に顕著である。	湿地や河川沿いに生育し、河川敷などで大群落を作る。阿武隈川と荒川の河川生態系に特に大きな悪影響を与えている外来植物の一つとして挙げられている。	重点対策外来種	①②③④		花粉症の原因植物となっている。1987年には福島市で大群落が成立していることが報告されている。1992年の河川水辺の国勢調査の時から阿武隈川の上流から下流まで広く確認されている。別名クワモドキ。
52	被子植物	キク科	キク	<i>Chrysanthemum morifolium Ramat.</i>		その他の総合対策外来種		浜通りと中通りの低地から山地。	民家の庭や集落周辺の路傍、田畑周辺、林縁などに植栽され、逸出している。キク属の在来種（福島県の場合はリュウノウギク、コハマギクなど）との交雑が危惧されているが、福島県では研究が進んでおらず、交雑の実体は不明である。	その他の総合対策外来種			
53	被子植物	キク科	オオキンケイギク	<i>Coreopsis lanceolata L.</i>	○	緊急対策外来種		県内ほぼ全域の低地から山地。	路傍、空き地、土手などで繁茂する。	重点対策外来種	①②③	南湖公園で継続的な駆除が行われている。	河原の固有種の生育地で問題となっていることから外来生物法で特定外来生物に指定されている。県内では今ところ河原の保護上重要な植物への影響などは明らかになっていない。花が美しいことから草刈りの際に刈り残されることがあるため、普及・啓発が重要である。
54	被子植物	キク科	フランスギク	<i>Leucanthemum vulgare Lam.</i>		その他の総合対策外来種		県内ほぼ全域の低地から亜高山。	草地、空き地、路傍、林縁、河川敷、土手などで繁茂している。	その他の総合対策外来種		尾瀬（沼山峠）で継続的な駆除が行われている。	花が美しいことから草刈りの際に刈り残されることがあるため、普及・啓発が重要である。
55	被子植物	キク科	コウリンタンポポ	<i>Pilosella aurantiaca (L.) F.Schultz et Sch.Bip.</i>		その他の総合対策外来種		中通りと会津の盆地、丘陵地から高山。	磐梯山の高山のガレ場やお花畑、登山道沿いで繁茂し、パンダイクワガタなどの高山植物と競合している。目立つオレンジ色の花で景勝地の夏の景観を大きく変えてしまっている。盆地、丘陵地から亜高山でも、路傍、草地などで繁茂していることがある。	緊急対策外来種（高山において）、その他総合対策外来種（高山以外において）	①②③	磐梯山で継続的な駆除が行われている。	花が美しいことから庭や花壇に植えたり、草刈りの際に刈り残されることがあるため、普及・啓発が重要である。
56	被子植物	キク科	オオハンゴンソウ	<i>Rudbeckia laciniata L.</i>	○	緊急対策外来種		県内ほぼ全域の低地から亜高山。裏磐梯、南会津町（旧田島町、鉾岩村）、安達太良山（福島市の国道115号線沿い）などで特に顕著である。	草地、湿地、河岸、路傍、林縁などで繁茂し、湿地植生や湿地の希少植物の生育に悪影響を与え、景勝地を含む各地で目立つ黄色い花で夏の景観を大きく変えてしまっている。	緊急対策外来種	①②③	各地で駆除が行われている。尾瀬、裏磐梯（五色沼湖沼群周辺など）、南湖公園で継続的に駆除が行われている。	
57	被子植物	キク科	ナルトサワギク	<i>Senecio madagascariensis Poir.</i>	○	緊急対策外来種		いわき市の低地から丘陵地。	海岸林、岩場、砂浜、路傍、花壇などで繁茂する。	重点対策外来種	①②③		
58	被子植物	キク科	セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima L.</i>		重点対策外来種		県内ほぼ全域の海岸、低地から山地。	河川敷、草地、湿地、路傍、空き地、土手などの至る所で繁茂する。目立つ黄色い花で里地の秋の景観を大きく変えてしまっている。阿武隈川と荒川の河川生態系に特に大きな悪影響を与えている外来植物の一つとして挙げられている。海岸防災林事業区内に設けられた保護区で繁茂している。	重点対策外来種	①②③	南湖公園で継続的に駆除が行われている。	
59	被子植物	キク科	オオアワダチソウ	<i>Solidago gigantea Aiton subsp. serotina (Kuntze) McNeill</i>		重点対策外来種		県内ほぼ全域の低地から山地。	路傍、草地、土手などで繁茂する。	重点対策外来種	①②③		
60	被子植物	キク科	アカミタンポポ	<i>Taraxacum laevigatum (Willd.) DC.</i>		重点対策外来種		県内ほぼ全域の低地から山地。	路傍、空き地、土手などで繁茂する。	重点対策外来種	③		
61	被子植物	キク科	セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale Weber ex F.H.Wigg.</i>		重点対策外来種		県内ほぼ全域の低地から亜高山。	路傍、空き地、土手などで繁茂する。	重点対策外来種	③		